



# 地震のその後...

## 図書館の場合



東北福祉大学図書館 としょかんぽう  
臨時増刊 (第 35 号)

東北福祉大学図書館報  
「としょかんぽう」



この冊子は web でもご覧いただけます。これまでの「としょかんぽう」も掲載していますので、ぜひご覧ください。

東北福祉大学図書館  
ホームページ



開館情報など、図書館からのお知らせは図書館ホームページをご覧ください。

東北福祉大学図書館報「としょかんぽう」臨時増刊（第 35 号） 2022 年 4 月発行

編集発行：東北福祉大学図書館広報ワーキンググループ

〒981-8522 仙台市青葉区国見 1-8-1

☎022(717)3309

3月16日夜、福島県沖を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生しました。

みなさん大丈夫でしたでしょうか。

場所によっては大きな被害があり、停電や断水、公共交通機関の乱れなど様々な影響がありました。

本学でも、翌日17日、18日に予定されていた卒業式が急遽延期され、  
職員は被害状況の確認のためあちらこちらと駆け回り、業者へ連絡を入れ・・・

バタバタとした時間が過ぎていきました。

# さて、図書館では どうだったでしょうか

図書館はその性質上、多量の膨大な数多の山盛りの書物が保管されています。何万冊、何十万冊、何百万冊と。本学図書館でも図書だけで40万冊くらいあります。(雑誌はタイトルで数えるので正確な冊数はわからないのです)

みなさんのお家でも、地震の揺れで本棚から本が落ちたりしませんでした？

図書館でも落ちましたよ・・・

みなさん、家の本棚から落ちた本はどうしましたか？  
拾って戻しました？

図書館でもそうですよ・・・・・・・・・・

## NOTE

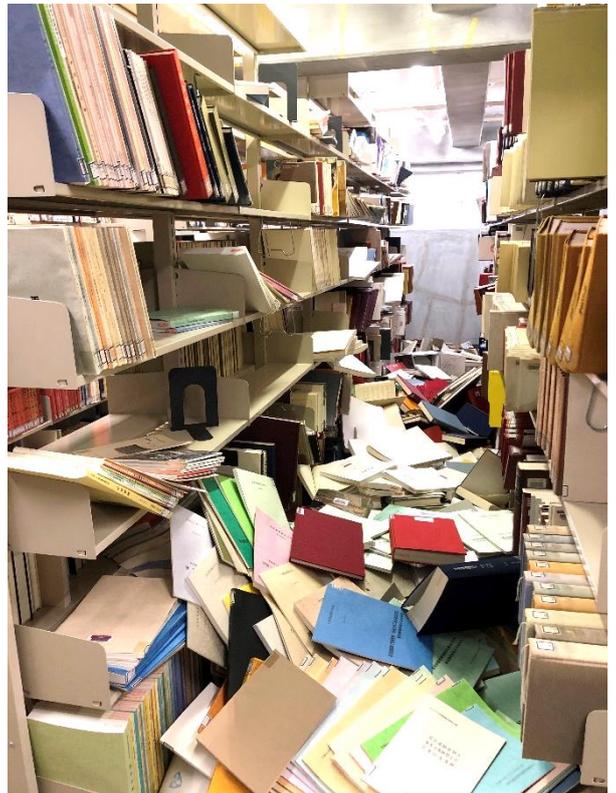
1冊の厚みを2cmだとすると、40万冊では8kmだよ。8kmというのは、「東北福祉大」から長町の「IKEA 仙台」までくらいだよ。



表紙の写真を見てもらえればわかるように、地震の揺れで書架(図書館では本棚のことを書架と言います)から本が落ちてしまいました。ちなみに表紙の写真は比較的被害の少ない場所です。だって床が見えるでしょう？ 本学図書館の書庫は4階までありまして、上に行くほど地震の影響が大きくなります。

### ～書庫へ～

4階では案の定、ものすごい冊数の本が落下し床にぐちゃぐちゃに積み重なっているのが確認されました。ひどい



こう・・・ひどい・・・

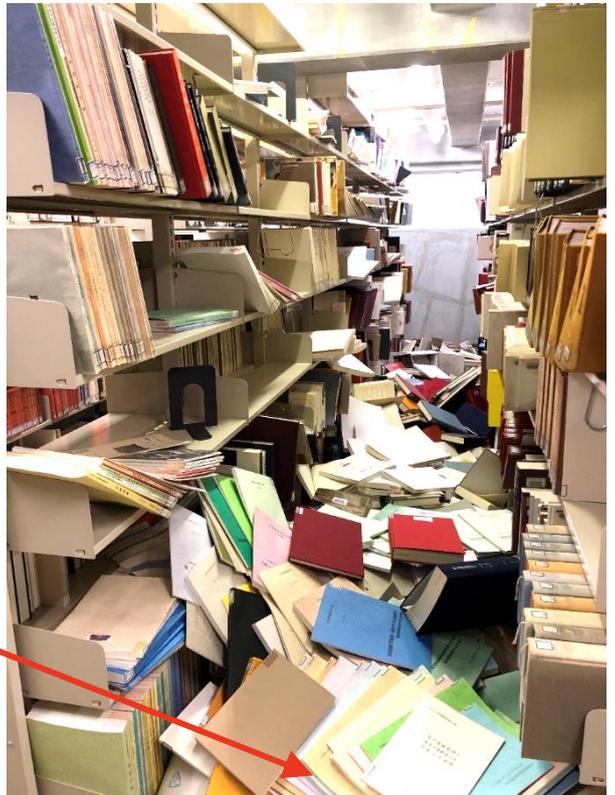
これを1冊、1冊拾って戻すんです。  
しかも！ただ闇雲に拾って戻すんじゃないんです！  
並べるんですよ！そして順番通りに棚に入れるの！

それでは、みなさんも図書館員の復旧作業を追体験してください。

まず、動きやすく、汚れてもよい服装でスタンバイ！  
作業用の手袋があるとよいでしょう。

準備ができたら書庫へ行きます。書架の間を見てまわり  
「うわぁ・・・」と思いながら作業する場所を決めます。

こちらの写真の書架は芸術関係の資料（NDCの7類）を  
配架してある場所で、手前の書架には遺跡の調査報告書  
がズラリと並んでおりました。



心を決めたらしゃがみます。

さあ、拾いましょう。



上の方から丁寧に拾っていきます。  
本が開いたまま落ちてしまったり、ページが折れて  
しまった本もたくさんありますので、これ以上破損しない  
よう慎重に持ち上げます。

作業は丁寧に！



おっと、頭上の棚には落ちそうで落ちなかった本が  
ありますので十分注意してください。  
余震が起きましたらすぐに離れましょう。

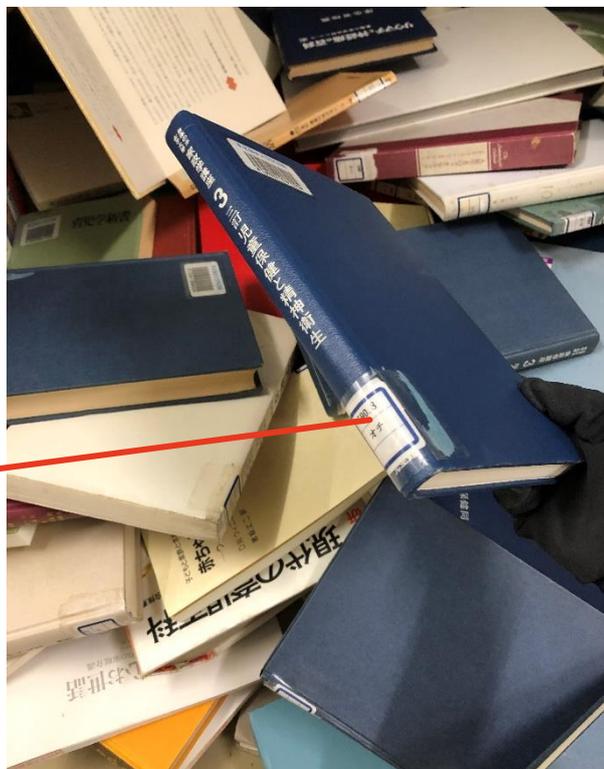
とにかく手前からどンドン拾っていきます。



本を拾い上げたら背ラベルの請求記号を確認します。

図書館のすべての本は原則この請求記号の順番に並べてあります。

記号を見て、  
まずどちらの書架から  
落ちたのかを判断  
します。



※日々、各所で作業をしているためこれは先程の書架とは違う場所の作業時のものです。

通路両脇の棚から  
落ちて混ざって積み  
重なっているため、  
どちらの書架の  
どのあたりの棚から  
落ちた本かを確認し  
まとめます。



#### NOTE

請求記号の上段の数字はNDC（日本十進分類法）から採っています。本の内容に応じた数字（記号）を記入し、その通りに並べると同じ内容の本が一か所に集まり閲覧・探索に便利なのです。中段のカナは著者等の苗字から2文字採ったものです。



「なんで書架に戻さないんだ」って思いました？

**戻せないんです！！！！**

こちらの写真をご覧ください。

この写真の右下に写っている、こちらの本。

赤で囲ってある書架から落ちたものです。

揺れによってかなり手前に落ちていました。

あそこの棚に戻しに行くには、この辺の床を片付けないと  
行けないのです！

となると・・・とりあえず積むしかないでしょ？

本学図書館では、とりあえず落ちた書架の近くに積み、  
通路を確保してから書架に並べるという順番で片付けています。



それでは、

拾って背ラベルを見て、積む

拾って背ラベルを見て、積む

拾って背ラベルを見て、積む



拾って背ラベルを見て、積む

拾って背ラベルを見て、積む

拾って背ラベルを見て、積む

拾って背ラベルを見て、積む

拾って背ラベルを見て、積む



# そうして 1時間ほど 作業したものがコチラです



通路の 3分の1  
整理できました！

作業速度はその書架にどのような本が置かれていたかによって変わります。

全集や百科事典のような、同じサイズで、厚さがあるハードカバーの本が多く並ぶ場所は、重さに耐えれば作業自体はスイスイ進みます。

・・・ただし、体力の消耗は激しく、腱鞘炎や腰痛にも要注意です。

薄い本やソフトカバーの本が多く並ぶ場所は1冊1冊の本は軽いものの、遠くまで飛んでいたり、滑って掴みづらかったり、折れを直したりと、手間がかかります。

# さらに 1時間ほど 作業しました



あと少しです。

「もっといいやり方があるんじゃないか・・・」

「もっと早くやる方法はないのか・・・」

そういった雑念を抑え、

途中で「箱がっ！」と  
なっても



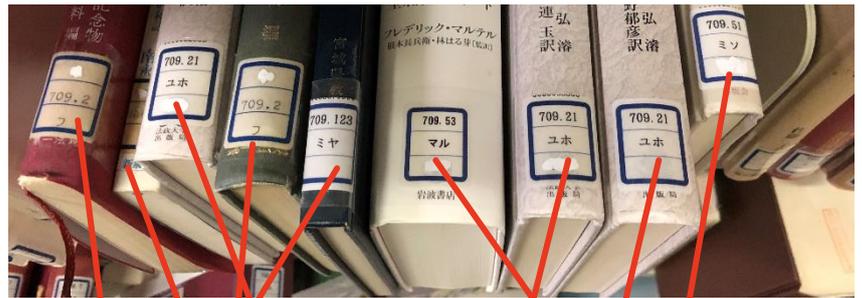
コツコツがんばると

このように、通路が現れます。



# では、次の作業に進みます

前述したとおり、図書館の本は背ラベルの順番通りに並べてありますので、上段の数字の順番に並べ、同じ数字のものは2段目のカナを見て50音順に並べます。



薄い本は背ラベルの記号が見えませんが、指でペラっとして確認します。



巻号がついているものはその順番通りに並べましょう。→



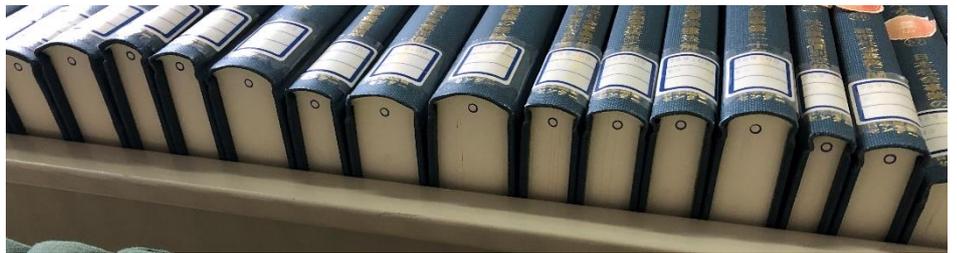
並べたら、所定の棚に戻します。

落ちなかった本がある棚に戻す際は、  
その落ちなかった本も含めて並べ直してください。

どんどんやっていきましょう。



そうそう、落ちなかった棚も  
本が棚からはみ出てきて  
いるので押し戻しておいて  
ください。



こうして、こう！



逆に引っ込んである本は手前を出して揃えてください。





斜めにズレてしまった本も、もちろん戻します。



つまり！

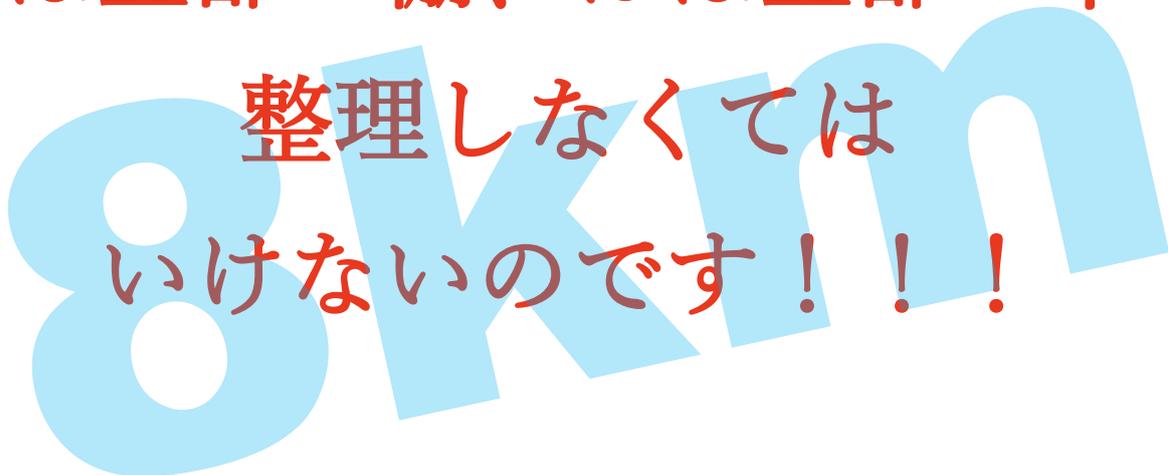
落ちていても！

落ちていなくても！

ほぼ全部の棚、ほぼ全部の本を

整理しなくては

いけないのです！！！！



地震が起きたのは3月。年度の締め、新年度の準備、さらには人事異動による引継ぎと忙しい時期です。

もちろん通常業務もしなくてはいけないので、各自、時間を見繕って事務室と書庫を行き来します。

また、大学としても卒業式や入学式、ガイダンス等の準備と実施で忙しい時期。これらの行事は担当部署だけでなく、他部署の職員も担当を割り当てられ招集されます。図書館からもスタッフが招集されました。そうなるとう復旧作業ができるのはわずかな人数、わずかな時間・・・

しかも！しかも！

こちらの写真をご覧ください。



こちらは、1年前の写真です。

ご記憶の方も多いと思いますが、1年前の2月にも大きな地震がありました。当然、図書館も揺れ、本が多数落下しました。そして、戻しました。

つまり！

図書館員にとっては、1年ぶり〇度目の復旧作業だったのです！！



大きな地震が起きる度に、本が落ち、復旧作業をします。

これは本学図書館だけでなく、図書館界共通の悩みです。

立地や建物の古さ、書架の構造、どのような揺れかによっても落ち方は変わりますし、本が落ちないように対策すると、利用しやすさなどに影響がある場合も多々あります。

本の落下だけでなく、安全のためにも免震構造に立て替えたいなあ地震の度に図書館員は思うのです。

そうこうしている内に、一列終わりました。

また次の列に行きましょう。



これらの作業は、利用者からは見えないものですが、  
少しでも図書館の仕事にご理解いただけたらと思います。

ちなみに、書庫の復旧作業が終われば  
次に待っているのは本の修復作業です。

落下の衝撃で破損した本を補修します。

今回もかなりの冊数が破損しましたので  
これもコツコツがんばります。



・・・作業は続くよ、どこまでも